



「目は口ほどにものをいう」といいます。確かによくいったもので、日常生活の中でも、相手の目を見ただけで気持ちを察することは、よくあります。

気持ちや精神状態のみならず、目を見ることで体の具合をも察知することができます。家族や友人など自分に近い人でしたら、顔色を見るのと同様に、目の輝きや目つきで具合が悪いことが分かると思います。

目は口ほどに

例えば、まばたきは、涙を目に行き渡らせて乾燥を防ぐという役割をしていますが、心理の変化によりその回数が増えたり、逆に減ったりすることがあります。通常、人のまばたきは1分間で20回程度ですが、緊張が高まるとその回数は多くなることが分かっています。

逆に集中していると回数は減ります。コンピュータ作業中にドライアイを自覚するのはこのためです。

部分が黄色くつぼくなる
と、「黄疸」、つまり肝臓の機能が悪くなっていることが分かります。

また、あつかんべをしたまぶたの裏である「瞼結膜」を見ると、貧血かどうかを判断することが出来ます。普段、この瞼結膜は赤い色をしています。貧血の時は白っぽくなっているはず

もし貧血になりがちな方は、1度自分で普段の時と、貧血を起したと

体全体の健康状態も察知

もつと医学的なお話しをしましょう。「球結膜」といって、眼球の白目の

きの瞼結膜とを比べてみてください。よく分かると思います。

ほかに見るのが、目の奥にあってカメラのフィルムにあたる「網膜」で

す。網膜にはたくさんの毛細血管があります。こは人間の体の中で唯一、血管が直接目に見えるところなのです。血管の状態から、動脈硬化症



や糖尿病、高血圧になっていないかどうかを推測できます。

また、目から脳へ情報を伝える視神経を診ることで、緑内障だけではなく、脳内の圧力が上昇していないか、知ることが出来ます。

私たち眼科医は、日常の診察の中で、常にこれらのことを観察しています。触診や聴診などで体を診ることはありませんが、このようなことで患者さんの目だけではなく全身の健康状態を測っているのです。

(スカイビル眼科医院 院長・秦 誠一郎)

〈第4月曜に掲載〉